



市川市立高谷中学校 学校だより 3月号

輝く若木



学校 HP

令和6年3月1日

3月の予定



- 1日(金) 予餞会+金 45
- 4日(月) 公立発表
- 5日(火) 3年給食終了、火 345612、会議のため放課後諸活動なし
- 6日(水) 在校生式練(5校時)、会議のため放課後諸活動なし
- 7日(木) 木 563412
- 8日(金) 金 125634、卒業式全体練(3校時)、在校生式練(4校時)
- 11日(月) 卒業式予行+月 456、1年民話の会(6校時)
- 12日(火) 水 1234+前日準備(PM)
- 13日(水) **祝 第44回卒業証書授与式**
- 14日(木) 給食終了、金 612345、片付け(1校時)、専門委員会
- 15日(金) 弁当日課、木 123456
- 18日(月) 月 123、放課後部活動 2時間まで
- 19日(火) 火 125、1,2年、ゆめ保護者会(1年:13:30 2年、ゆめ:14:30) 放課後部活動 2時間まで
- 21日(木) 金 123、職員会議、放課後部活動 2時間まで
- 22日(金) 学年集会(1年:1校時 2、ゆめ:2校時)、大掃除、放課後部活動 2時間まで
- 25日(月) 修了式、離任式、放課後部活動 2時間まで



高谷中みんなの広場



三寒四温！！

「輝く若木 2月号」は、「季節と体調」についてお話をしました。

3月号も、引き続き、季節のお話から始めます。

みなさんは、「三寒四温」という言葉を聞いたことがありますか？2月から3月の、ちょうどこの時期の気候を言います。意味を『辞』に書き出しました。

ところで、今回は、なぜ「三寒四温」の話をしたかという、この、季節の移り変わりを、「人間の成長」に当てはめて考えてみたいと思ったからです。

冬から春にかけての、進んだり、戻ったりする自然の変化は、人間の成長の在り方に似ている、ということです。つまり、成長とは、一直線になだらかに変化するものではなく、「うまくいくこと」「うまくいかないこと」の間を、ギザギザに、場合によっては不格好に上昇していくものなのではないのかと…。

そこには、葛藤や苦しみがあるかもしれません。しかし、冬のあとには必ず春が来るように、焦らずたゆまず進んでいけば、その先に必ず人としての成長がある。

この季節の「三寒四温」を肌で感じるたび、私はそう思うのです。

さて、みなさんの、この1年の成長はどのようなものでしたか？

順調になだらかに成長した人。

三寒四温のように前進と停滞を繰り返しながらも、徐々に成長した人。

中には、今年の気候のように、初夏のような暖かさと真冬の身を切る寒さの間で苦しんだ人もいたかもしれませんね。

「冬来たりなば春遠からじ」です。

明日の成長を信じ、夢と希望を胸に、「焦らずたゆまず」進んでいきましょう。

【卒業に向けて】

いよいよ卒業式に向けて、練習が始まります。

三年生の皆さんは、人生の節目に向けて心を整えているところだと思います。在校生は、三年生からのバトンをしっかりと受け取り、高谷中の伝統を継承すべく、先輩の背中をしっかりと目に刻みましょう。



さんかんしおん[三寒四温](名)
冬、三日間ぐらい寒く、次の四日間ぐらいがあたたかいことが、くり返されること。

(『三省堂国語辞典』より)

信篤三つ葉学園

三つ葉通信

【理科*お迎え授業】

高谷中では、これまで、中学校から小学校へ出向いて授業を行う、乗り入れ授業を行ってきました。今回、理科ではその逆の、小学生に来てもらう「お迎え授業」を行いました。中学校の理科室で行う本格的に行われる実験に、小学生たちは目を輝かせていました。



これ、読んでみて



おうちの人と
お子さんと

『愛する源氏物語』 俵 万智 著/文春文庫

2024年のNHK大河ドラマ「光る君へ」の主人公は、『源氏物語』の作者、紫式部です。今回紹介する本は、歌人の俵万智さんが、和歌の視点から『源氏物語』の魅力を紹介したもの。万智さんお得意の、和歌を短歌で訳す、という手法が、物語に新しい光を照らします。これを読んだら、紫式部の作家としての手腕に舌を巻くこと間違いなしです。

1年生に新しく、英語の先生をお迎えしました。

前村 弥生 先生です。

- ①好きな食べ物(皿うどん)
- ②学生時代の部活動(弓道)
- ③自分を動物に例えると？(猫)
- ④みんなに一言

短い期間ですが、楽しく学びたいと思っています。

よろしくお願いします。